

沖縄県地域公共交通協議会

第1回協議会 議事要旨

日時：令和5年7月18日（火）

14:00～16:00

場所：沖縄県市町村自治会館ホール

協議会規約（案）について

発言者	質問・意見	回答
事務局	・ 協議会規約（案）について意見はあるか。	・ 意見なし。

会長互選について

発言者	質問・意見	回答
事務局	・ 会長に東京大学大学院特任教授の中村委員、副会長に沖縄県企画部長の金城委員を推薦することについて意見はあるか。	(一同) ・ 異議なし。

沖縄県地域公共交通計画（仮称）計画骨子案について

発言者	質問・意見	回答
<p>琉球大学 池田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 名簿の訂正をお願いします。 旧) 琉球大学工学部名誉教授 新) 琉球大学名誉教授 ▪ 地域公共交通計画の地域の定義はどうなっているのか。 ▪ 沖縄県総合交通体系基本計画との関連性はどうか。 ▪ 鉄軌道は本計画の中で位置づけていただきたい。 ▪ 地域のフィーダー交通の整理の枠組みはどう考えているのか。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ ご指摘の通り修正する。 ▪ 地域公共交通計画は法記載の表記であり、本地域公共交通協議会では本島陸上交通で広域的な移動を担う幹線的な公共交通を議論し、各市町村地域公共交通協議会等では各市町村内の交通を議論する会議であり、県と市町村が相互に連携しながら取組むこととしている。 <p>(中村会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 本計画の計画期間は5年であるので、沖縄県総合交通体系基本計画を受けて、この期間で重点的に行っていく内容となる。ただし、先々のビジョンに繋がることは計画内容にしっかりと入れておくことが重要で、地域公共交通計画に盛り込むことで、様々な特定事業が進められる点は強調しておきたい。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 本計画では、路線バスやタクシー等の既存公共交通を中心に、今後どのような計画としていくかを議論しつつ、BRTやLRT等もテーマにはなるかと考えている。また鉄軌道については調査は継続されているが、時間軸が定まっていないところもあり、現時点では本計画で触れていない。 ▪ これまでも基幹バスシステムの取組が進められており、これと並行しながらフィーダー交通について本計画の中でも議論を進めていく予定である。

発言者	質問・意見	回答
琉球大学 神谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ コロナ禍前と比較して、県庁周辺やおもろまち周辺で、朝の人の動きが戻っておらず、就業の面でも那覇の中心性が低下し、働く場所が広がっている。人の住む場所も広がっている中で、公共交通の軸をきちんと作ることが重要で、そこに住む場所、働く場所を考えていく必要がある。 ▪ 那覇市内の駐車場利用料金も安いと感じる。駐車場政策や都市計画も、地域公共交通計画の中で関連することを認識しながら議論することが重要である。 ▪ 石垣では人手不足や生活・観光の足の確保の課題を抱える中、陸海含め複数の交通事業者が議論しながら観光 MaaS の取組を行っている。地域の移動を考える際は、個別議論ではなく、市町村や各事業者が自分たちに何ができるか一緒になって議論することが重要である。 	(事務局) <ul style="list-style-type: none"> ▪ 市町村の拠点や交通結節点は、議論が始まっているところや計画等が示されているところもあると認識している。今後、協議会等を通して市町村の拠点等について議論が進んでいければと考えている。 ▪ 駐車場政策は難しい側面もあるが、公共交通への利用転換を進めていくことが議論の軸と考えているため、関係機関とも問題提起しながら共有していければと考えている。 ▪ 運転手不足の支援や、新しい技術の活用等を含め、計画を立案していく中で議論できればと考えている。
中村会長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 大きな商業施設整備に伴うものや、小さな人の動きの変化に対して、バスは素早く対応できる特性はあるが、その際必要な財源や合意形成プロセスが生じるため、そこを考えていく場が本協議会となる。 ▪ その時に、こういうやり方で、少しずつ皆さん汗をかけば、こういうことができるという議論は必要となるため、今後計画に盛り込んでいく中でも考えていくことが重要である。 	

発言者	質問・意見	回答
琉球バス 交通 小川委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ コロナの影響や燃料費高騰で路線バスが大変厳しい中、沖縄県並びに全市町村に支援いただき、御礼申し上げます。 ▪ 路線バス運転手不足に関しては、二種免許取得者が少ないため、新規採用者数が増加することが必要となる。このため二種免許取得にあたっての職業訓練や取得を支援するような取組をお願いしたい。 ▪ また、沖縄県、各市町村にご協力いただき、公共交通を利用していただく施策を是非お願いしたい。 ▪ 交通結節点については、事業者を含め色々取り組んでいるが、関係市町村のご協力・ご理解を是非お願いしたい。 	
やんばる 急行 谷田貝委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 沖縄のレンタカー密度は非常に大きく、最近の報道では過去最大の車両数と聞いている。観光客がレンタカーで沖縄観光することが、沖縄県の持続可能性や SDGs を考えると好ましい姿なのかどうかと考える。レンタカーについても、駐車場同様に上手くマネジメントするような視点で今後議論できればと思う。 	

発言者	質問・意見	回答
<p>沖縄総合事務局運輸部 星委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 本協議会の内容を、大変高く評価しており、国土交通省としても地域公共交通計画の議論がキックオフいただけることについて御礼を申し上げます。 ▪ 現在リ・デザインの考え方を実装すべく、その取り組みを進めており、DX、GX等とあわせて地域の持続可能性や地域社会の生活の質の向上が図れるよう実現していくとの考え方である。 ▪ これから本当に質の高い社会を実現していく上では、事業者や地域の方々が抱える課題を交通セクターの中だけで解決させるのではなく、都市の機能、産業の基盤を含める形で持続可能性を高めていくことが必要と考えている。 ▪ 今回の課題の捉え方、そして計画の骨子に示していただいた箇所について大いに賛同する。 ▪ また、沖縄総合事務局でも、皆様の計画立案を全面的にサポートさせていただく考えであり、計画の内容などでは、地域住民の潜在意識の掘り起こし等を確認していただきつつ、車を使わなくても済むライフスタイル、地域のあり方を含めた交通計画を作っていたのではないかと大変期待している。 ▪ 今後とも関係の皆様とともに事業を進めていくので、ご理解ご協力をお願いしたい。 	

発言者	質問・意見	回答
中村会長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 資料4の5頁に関しては、本日の意見も踏まえながら具体的に議論していくと、財源の話は必ず出てくるが、関係者の合意形成が重要となる。 ▪ 本日参加いただいている国、県、各市町村を含め多くの方々が、非常に意識高く取組を始めていただいているこの流れを生かして、関係者がどうやって一緒に取り組むかをもう少し具体的に踏み込んでいくことが重要になる。 ▪ 資料2の8頁も重要であり、地域公共交通利便増進事業の拡充の中でのエリア一括協定運行事業や、協議運賃制度の創設なども制度もある。本日資料で示された多くの課題や様々な意見に関して、新しいアイデアを組み合わせることでこの計画に盛り込むことができれば、実現できる非常に良いチャンスでもある。 ▪ 各委員の方々には今後お願いすることも増えるかと思うが、今後ともよろしくお願ひしたい。また、いただいた意見に関しては次回に向けて対応させていただきたい。 	

以上